

■ドイツ：返還廃棄物の受け入れについて環境相と電力が合意、一部の州は反発

ドイツ主要各紙は 2015 年 6 月 19 日、英・仏の再処理工場より返還される高レベル放射性廃棄物（ガラス固化体）の受け入れについて、ヘンドリクス連邦環境相と大手電力 4 社 CEO が合意に達したと報じた。2017 年以降返還される 26 のキャスクの受け入れ先候補と目されているのは、フィリップスブルク（バーデンヴェルテンベルク州）、ブロックドルフ（シュレースヴィヒ・ホルシュタイン州）、ビブリス（ヘッセン州）、イザール（バイエルン州）の 4 つの発電所の中間貯蔵施設。このうちバイエルン州政府は反対しているが、環境相は同州にも受け入れを強いる構えである。キャスクはもともとゴアレーベン中間貯蔵施設に搬入される予定であったが、政府の決定により同施設への廃棄物輸送が停止され、新たな受け入れ先が必要となっていた。電力会社はこれに対して 2014 年に訴訟を提起していたが、受け入れ先が確定したため訴訟を取り下げるよう、環境相は要求している。